

安心して避難できるように

実施主体 小森野校区まちづくり振興会、主任児童委員、重心分科会

主任児童委員が、「医療的ケア※が必要なお子さんの避難を検討したい」とまちづくり振興会や校区社会福祉協議会等呼びかけ、お子さんが実際に参加しての避難訓練につながりました。

まず、呼吸器等の資機材を含めた本人の移動や、停電した場合について検討。「子育てサロンのマットが使える」「発電機は2台ある」「かかりつけの病院や関係機関に助言をもらおう」等、様々な意見が出ました。

当日は、約30人が参加。本人と家族を迎えに行く時は、救急救命士の資格を持つ人が同行し、避難先まで移動、支援者が受入れ準備を行うといった流れです。

「どうすれば動線がより確保でき、本人に負担なく支援できるか」「家庭、校区で他に備えておくものは何か」等の意見を出し合い、訓練の振り返りもしました。

校区内には他にも医療的ケアが必要なお子さんがいることから、「なにか力になれるよう、非常時も非常時以外もできる支援はないか、検討したい」と話されていました。



実際に訓練しておくことでお互い安心です



関係機関の参加でより安心して実施できました

後日談

この訓練をきっかけに、ご家族は地域の人とのつながりができ、校区体育祭にも参加。今度は友達も誘って、校区文化祭にも参加したいと楽しそうに話されていたそうです。

※医療的ケア…日常生活を営むうえでの^{たん}痰の吸引や、経管栄養などの医療的処置

“安心”のために

～日常生活自立支援事業の生活支援員～

皆さん、生活支援員をご存知ですか？

認知症、知的障害、精神障害などにより判断能力が不十分なために日常生活でお困りの人を対象に、福祉サービスの利用手続きや金銭管理のお手伝いをして、住み慣れた地域で安心して暮らせるようにサポートする日常生活自立支援事業があります。

この事業を利用している人に生活費をお届けしたり、公共料金や施設料などの支払いのお手伝いをしたりするのが生活支援員です。



県内の生活支援員研修でもハーモニカを披露

現在、久留米市では、18人の生活支援員の皆さんが活動されています。

利用者のご自宅や施設を訪問し、お金をお渡しするだけでなく、生活の様子を聞いたり、世間話をしたり…。中には、特技のハーモニカを披露し、音楽をとおして交流されている生活支援員もいます。

生活支援員は、利用者の皆さんが地域で安心して生活できるように活動しています。

生活支援員の声

- 「会うのを楽しみにしていた」と言ってもらえると、こちらも嬉しくなります。
- 自分もいつか助けてもらわないといけなくなる。できるうちは、周りの人のために何かできることをしたいと活動を始めました。